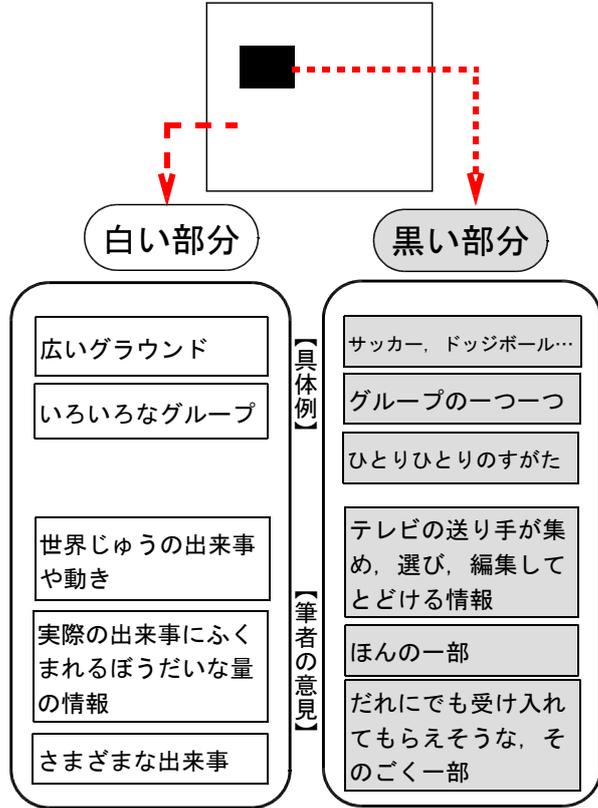


メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう
めあて

本論部分を読み取り、筆者の説明の技について考えよう。



○筆者が図を使って伝えたかったことをまとめよう。

わたしたちはテレビを見るだけで分かったつもりになるが、テレビからとどけられる情報はほんの一部であり、報道されなかった事実の中には、もっと重要な情報もたくさんある。

筆者の説明の技③
図や具体例を用いる

効果
自分の考えを読者になっとくさせ、より分かりやすく伝えることになる。

筆者の説明の技①
グラフの使用

筆者の説明の技②
問いかけ

【5 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート「テレビとの付き合い方」⑤
本時のねらい

「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を整理し、図や具体例を用いている筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）を読み取らせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 前時に書き出した「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を確認しながら本論部分を読ませる。

○ 前時までに見付けた筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）を振り返り、想起させる。

2 「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を整理する。

○ みんなが見付けた「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を、話し合いながら整理させる。

※ 児童のワークシートを事前にチェックしておき、あらかじめ短冊に言葉を書き出し、状況に応じて補足説明します。

○ 黒か白かを考えさせ、最初に発表した児童に実際に黒板で操作させ、話し合いながら整理させる。

※ 「黒い部分」と「白い部分」との対応関係や具体例と筆者の意見のまとまりについては、その区別が分かるように教師と一緒に分類していきます。

※ 「サッカーやドッジボール、おにごっこ、なわとび」という表現は個々を見れば「黒い部分」に当てはまりますが、文章の流れからは、「白い部分」とも取れるので、状況に応じて補足説明します。

3 筆者が「黒い部分」と「白い部分」の図を使って伝えたかったことをまとめよう。

※ 整理した「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を参考にまとめさせます。必要があれば「錯覚」「見えなくなる」などの言葉を使ってもよいことを伝えます。

4 筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）について考える。

○ 筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）として、筆者が図や具体例を用いた意図や、それにはどのような効果があるのかについて考えさせる。

※ 自分の考えを納得させたり、より分かりやすく伝えたりするために、図やグラフを用いていることを押さえます。

5 筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）についてまとめる。

評価 筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）として、図や具体例を用いていることを捉え、その効果を読み取っている。
(読ウ)

6 学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。

○ 次時は、資料部分について読み取っていくことを伝える。